

首相と厚生労働大臣によって繰り返される靖国神社例大祭における真榊奉納に強く抗議します

内閣総理大臣 岸田文雄様

厚生労働大臣 加藤勝信様

本日、あなたがたは靖国神社の春の例大祭において、それぞれ「内閣総理大臣 岸田文雄」「厚生労働大臣 加藤勝信」の木札を添えて真榊を奉納されました。私たちは、岸田政権において、敵基地などを攻撃できる反撃能力の強化が謳われ、軍事予算が著しく増強されるなど、庶民の生活苦やアジアの戦争犠牲者たちの思いや願いを蹂躪する形で戦争への準備が着々と進められていることに不安と恐怖を覚えており、戦争神社ともいうべき靖国神社に真榊を奉納された今回の行為に対して、あらためて強く抗議の意を表明します。

私たちは、これまで、例大祭の度ごとに、首相や閣僚による真榊奉納に対する抗議文をお送りしてきましたが、岸田内閣がまったく聞く耳を持たず、「意見を聞く」ふりをしているだけの見かけ倒しの内閣ではないかとの疑いを抱いています。松野官房長官は閣議後の記者会見で「私人の立場での奉納と理解しており、政府として見解を申し上げる事項ではないと認識している」と述べましたが、「見解を述べる事項でない」にもかかわらず、あえて記者会見で「私人の立場」を強調せずにおられないのは、宗教分離原則に抵触するという自覚がありつつも、なおかつ私たちを黙らせることが出来るという思いが透けて見える不遜な態度というほかありません。このような閣僚たちの傲慢な姿勢は、戦前のこの国の有様を彷彿とさせるとともに、民主的な手段で政治にかかわることの無力さを想起させ、元首相や首相に対する昨今の暴力的な暗殺および暗殺未遂事件を招いているのではないかと、私たちは憂えています。

私は、靖国神社の神職に直接電話で確認してみましたが、靖国神社では一般庶民による真榊奉納は受け付けておらず、今回の行為が一般的な私人の立場によるものでないことは明らかです。真榊は神社神道では祭事に備えられる神具であり、単なる観賞植物ではありません。閣僚がこのような宗教行為に加わることは、政教分離の原則に悖る行為であり、かつて、国家神道を精神的背景として無理矢理侵略戦争を遂行した大日本帝国を彷彿とさせる忌まわしい愚行です。

私たちは、到底今回の行為を容認出来ませんし、韓国外務省も報道官の論評として「過去の侵略戦争を美化し、戦争犯罪者を合祀した靖国神社に日本の責任ある指導者たちが再び供え物を奉納したり、参拝を繰り返したりしたことに深い失望と遺憾の意を表す」との見解を表明しています。ここではすでに私人であるかどうかは問題とされず、「日本の責任ある人たちが歴史を直視し、過去に対する謙虚な省察と真の反省を行動で示すことを促す」と述べられています。これは3月16日に行われた日韓首脳会談の成果さえも損なう行為です。ここに厳しく指摘されているとおり、政府の要人が靖国神社の例大祭に真榊を奉納する行為は、国際政治に大きな禍根を残し、憲法前文に謳われている「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼する」行為とは相容れないことを弁えてください。

「国際社会において、名誉ある地位を占め」るためには、「自国のことのみに専念して他国のことを無視してはならないのであって」「普遍的な」「政治道徳の法則」に従うことが必須です。今回のあなたがたによる靖国神社春の例大祭における真榊奉納は、自国民にとっても、信頼すべき他国にとっても、憲法前文に謳われているこの「政治道徳の法則」に悖る行為です。再びこのような行為を繰り返さないよう、強く要望致します。

2023年4月21日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会委員長 小塩海平